

**令和3年度実施  
(2021年度実施)**

**卒業生アンケート  
調査報告書**

**令和3年(2021年)11月  
別府大学短期大学部**

## はじめに

別府大学短期大学部では、教育の充実と改善に役立てるため、本学卒業生を対象とした卒業生アンケートを実施し、その結果を公開しています。

アンケートの設問は、ディプロマ・ポリシーの①教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）、②専門力（専門に関する基本的な知識、技能）、③汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）を中心とし、その他、本学の教育改善について自由な意見を幅広く回答いただいています。

令和3年度の調査では、2016年度及び2018年度の卒業生を対象とし、95件の回答が寄せられました。卒業生の皆様から頂いた貴重な意見に基づき、本学の教育の見直しと改善にむけた検討を進めてまいります。

最後になりますが、このアンケートに参加いただき、貴重なご意見をいただいた卒業生の皆様に感謝申し上げます。

令和3年（2021年）11月 別府大学短期大学部 FD 委員会

## 目次

令和3年度卒業生・雇用主アンケート調査 実施要領	1
卒業生アンケート調査結果	
（1）食物栄養科調査結果	2
（2）初等教育科調査結果	9
別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー」に基づく卒業生・雇用主アンケートの結果による DP 達成度評価	
「卒業生・雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価実施要領	16
別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー	17
食物栄養科「卒業生アンケート」の結果による DP 達成度評価	
1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）	18
2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）	19
3. 汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）	21
初等教育科「卒業生アンケート」の結果による DP 達成度評価	
1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識・技能）	23
2. 専門力（専門に関する基本的な知識・技能及び態度）	24
3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）	25

## 別府大学短期大学部 卒業生・雇用主アンケート実施要領

### (目的)

第1条 学生の卒業後の進路・就職状況等から、在学中に身に付けさせる学力や資質・能力及びディプロマ・ポリシーに照らして教育の成果や効果を検証し、教育力の向上や改善に資することを目的とする。

### (所轄部署)

第2条 当該調査に関する所轄部署は、学生事務部（担当部：キャリア支援課）とし、関連部署（FD委員会および就職委員会）と連携して行う。

### (調査対象)

第3条 調査対象は以下の2つとする。

- (1) 本学を卒業した過年度の卒業生
- (2) 卒業生の就職先、学生が就職活動を行っている企業・団体等

### (調査方法)

第4条 調査方法は以下の手順で行う。

- (1) キャリア支援課で送付先を抽出する。
- (2) 質問項目は、FD委員会および就職委員会でディプロマ・ポリシーを反映させ検討・作成する。
- (3) アンケート実施期間は、第2四半期から第4四半期の一定期間（10日間程度）を定め、対象者に送付する。
- (4) 送付方法は、郵送または対象者に届く効果的な方法にて送付する。
- (5) 回収方法は、インターネットやファックス等を用い、対象者が回答しやすい方法にて行う。

### (集計・分析)

第5条 集計及び分析は下記の部署が担当し、企画運営会議へ報告する。

- (1) 卒業生・雇用主アンケートの集計は、キャリア支援課が担当する。
- (2) 卒業生アンケートの分析および報告書作成は、FD委員会が担当する。
- (3) 雇用主アンケートの分析および報告書作成は、就職委員会が担当する。

### (公表)

第6条 企画運営会議は報告に基づき、教授会の儀を経て、年度内に大学ホームページに掲載公表する。

### (その他)

第7条 調査方法や質問事項等については、本調査の目的を逸脱しない範囲で修正、変更等を行う。

以上

### 附 則

この要領は、令和3年4月21日から施行し、令和2年8月1日から適用する。

## 卒業生アンケート調査結果

### (1) 食物栄養科調査結果【送付:98人、回収:27人、回収率 27.8%】

調査対象 2016年度卒業生及び2018年度卒業生

発送日 令和3年8月2日(月)

回答期限 令和3年8月17日(火)

#### 【I. はじめに基本事項についてお答えください。】

問1. あなたの卒業年月をお答えください。

卒業年月	回答数	割合
2017年3月	13	48.2%
2018年9月	1	3.7%
2019年3月	13	48.1%
合計	27	100.0%

問2. 現在の職業(職種)をお答えください。

職業(業種)	回答数	割合
栄養士(給食委託業者)	2	7.4%
栄養士(病院、福祉施設、保育園等)	15	55.6%
事務(受付、窓口業務、経理等)	4	14.8%
児童指導員	1	3.7%
職業訓練校生	1	3.7%
セラピスト	1	3.7%
会社員	1	3.7%
専業主婦	1	3.7%
学生	1	3.7%
総計	27	100.0%

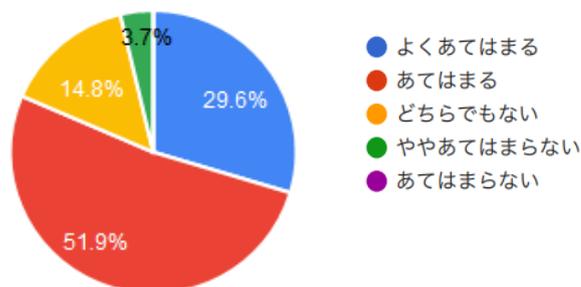
【Ⅱ. 別府大学短期大学部食物栄養科で受けた教育について、次の事項に5段階評価でお答えください。また、各事項に対して特記事項があれば、自由記述欄にご記入ください。】

[1:よくあてはまる 2:あてはまる 3:どちらでもない 4:ややあてはまらない 5:あてはまらない]

〈教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）について〉

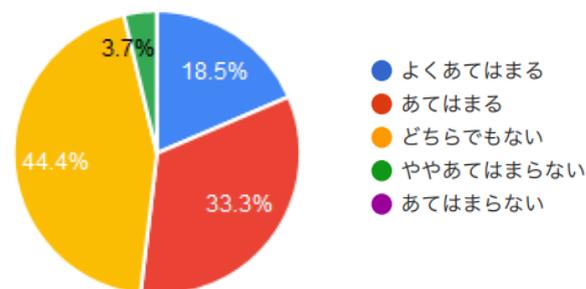
問3. 短期大学卒業に必要な知識・技能と幅広い思考力・判断力・表現力などの基礎的な教養は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1:よくあてはまる	8	29.6%
2:あてはまる	14	51.9%
3:どちらでもない	4	14.8%
4:ややあてはまらない	1	3.7%
5:あてはまらない	0	0.0%



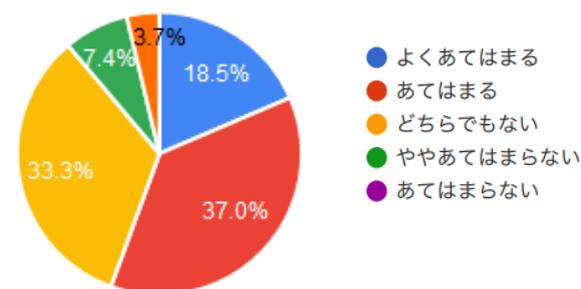
問4. 人間の探求や自然の摂理（心理学、生物学、化学）、社会の文化（法学、地域社会論）などの基礎的教養は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1:よくあてはまる	5	18.5%
2:あてはまる	9	33.3%
3:どちらでもない	12	44.4%
4:ややあてはまらない	1	3.7%
5:あてはまらない	0	0.0%



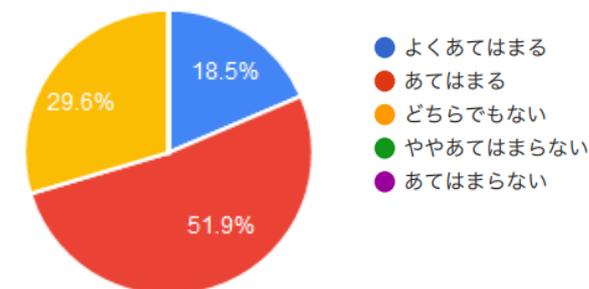
問5. 情報処理や外国語（情報機器論、英語）などの基本的なリテラシーは役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1:よくあてはまる	5	18.5%
2:あてはまる	10	37.0%
3:どちらでもない	9	33.3%
4:ややあてはまらない	2	7.4%
5:あてはまらない	1	3.7%



問6. 運動と健康維持・増進などの活動を実践する基本的な技能（保健体育）は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1:よくあてはまる	5	18.5%
2:あてはまる	14	51.9%
3:どちらでもない	8	29.6%
4:ややあてはまらない	0	0.0%
5:あてはまらない	0	0.0%



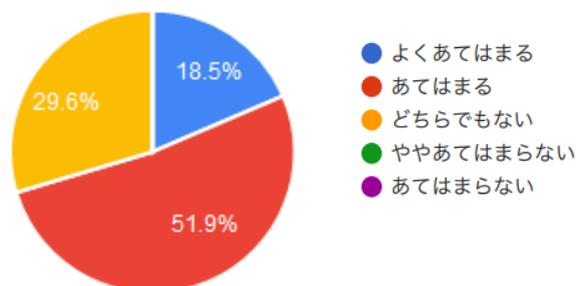
問7. どのような教養教育が社会に出た後に役立つと思いますか。ご意見を自由にご記入ください。

- ・電話対応や敬語の使い方など
- ・礼儀
- ・一般常識やマナー
- ・基礎的な対応力、積極性
- ・冠婚葬祭の礼儀作法、マナー
- ・調理実習
- ・判断力
- ・ビジネスマナー
- ・社会人としてのマナー、言葉遣いの実践
- ・敬語や尊敬語等の使い方、漢字、電話対応の仕方
- ・人としての常識、挨拶ができるか、率先して行動に動けるか。それがあるだけで全然違うと思います。
- ・アレルギー対応や離乳食について
- ・挨拶の徹底

〈専門力（専門に関する基本的な知識、技能）について〉

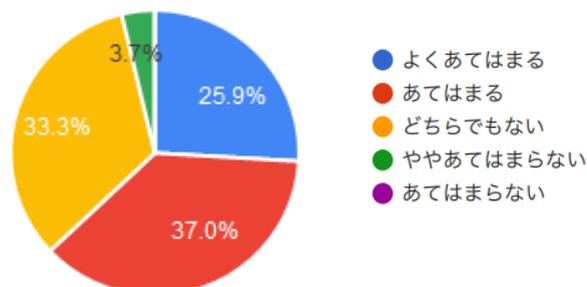
問8. 社会生活と健康について基礎的な知識は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	5	18.5%
2：あてはまる	14	51.9%
3：どちらでもない	8	29.6%
4：ややあてはまらない	0	0.0%
5：あてはまらない	0	0.0%



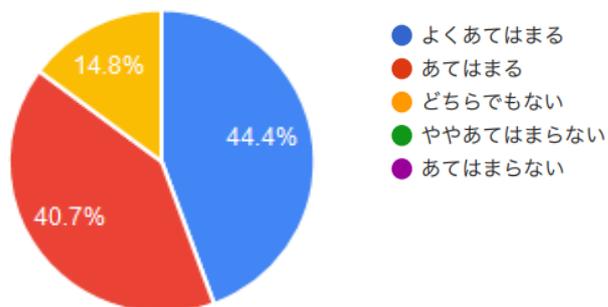
問9. 人体の構造と機能について基礎的な知識と、それに関する実験の技能は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	7	25.9%
2：あてはまる	10	37.0%
3：どちらでもない	9	33.3%
4：ややあてはまらない	1	3.7%
5：あてはまらない	0	0.0%



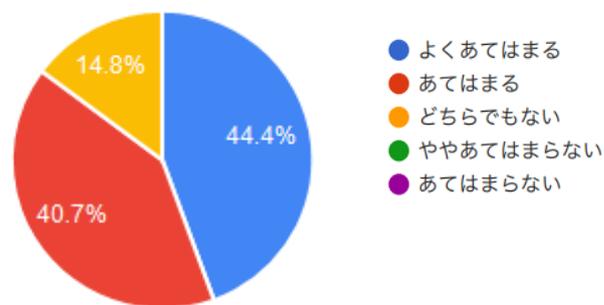
問 10. 食品と衛生について基礎的な知識と、それに関する実験の技能や調理技術は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1: よくあてはまる	12	44.4%
2: あてはまる	11	40.7%
3: どちらでもない	4	14.8%
4: ややあてはまらない	0	0.0%
5: あてはまらない	0	0.0%



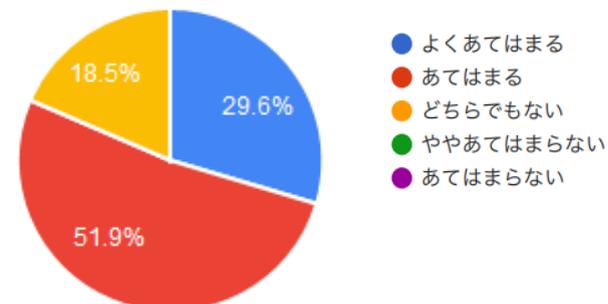
11. 栄養と健康について基礎的な知識と、それに関する実験の技能や調理技術は役立っているか。

解凍番号	回答数	割合
1: よくあてはまる	12	44.4%
2: あてはまる	11	40.7%
3: どちらでもない	4	14.8%
4: ややあてはまらない	0	0.0%
5: あてはまらない	0	0.0%



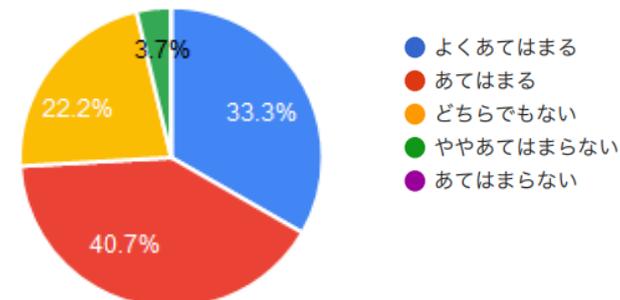
問 12. 栄養の指導について基礎的な知識と、それに関する実践的な技術は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1: よくあてはまる	8	29.6%
2: あてはまる	14	51.9%
3: どちらでもない	5	18.5%
4: ややあてはまらない	0	0.0%
5: あてはまらない	0	0.0%



問 13. 給食の運営について基礎的な知識と、それに関する実践的な技術は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1: よくあてはまる	9	33.3%
2: あてはまる	11	40.7%
3: どちらでもない	6	22.2%
4: ややあてはまらない	1	3.7%
5: あてはまらない	0	0.0%



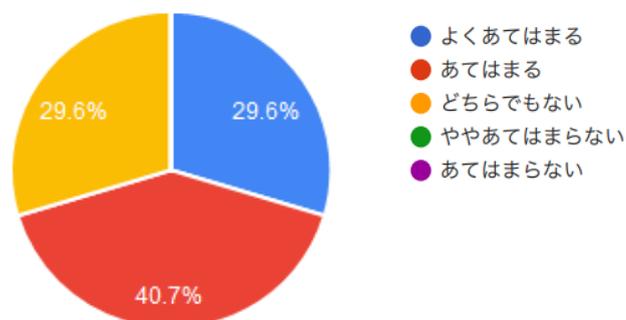
問 14. 実社会での経験を踏まえて学生時代を振り返ったときに、有意義だったと思う専門科目の授業がありましたらご記入ください。またその理由をご記入ください。

- ・栄養学
  - ・栄養指導の基礎知識など
  - ・学生時代のことを全く活用できていない
  - ・調理実習、集団調理、給食関係、衛生管理などは実際の現場で必ず必要になる為、しっかりと学ぶべきだと思います。
  - ・集団調理、
  - ・調理実習
  - ・大量調理、栄養学
  - ・病院実習
  - ・臨床栄養学
- 病院で調理員として働く身として、身体のことや患者さんの病態に合わせた食品（とろみをつける粉など）を知ることができたから
- ・病院実習

〈汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）について〉

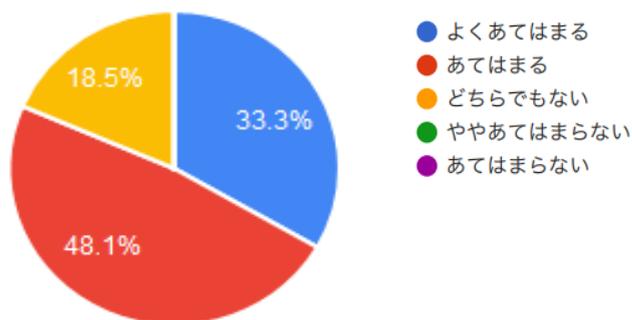
問 15. 【思考力】論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	8	29.6%
2：あてはまる	11	40.7%
3：どちらでもない	8	29.6%
4：ややあてはまらない	0	0.0%
5：あてはまらない	0	0.0%



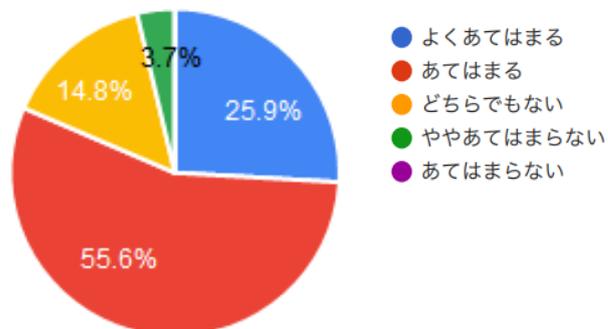
問 16. 【実行力】組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	9	33.3%
2：あてはまる	13	48.1%
3：どちらでもない	5	18.5%
4：ややあてはまらない	0	0.0%
5：あてはまらない	0	0.0%



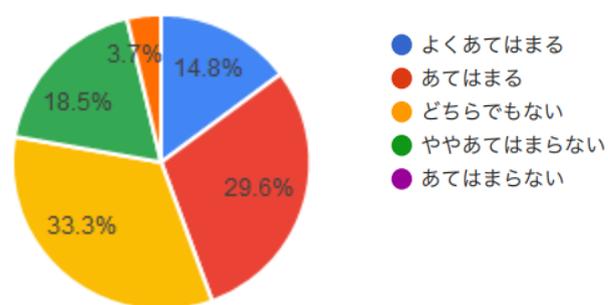
問 17. 【表現力】 自分の考えを的確に文章或いは口頭で表現する力、場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、コミュニケーション力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	7	25.9%
2：あてはまる	15	55.6%
3：どちらでもない	4	14.8%
4：ややあてはまらない	1	3.7%
5：あてはまらない	0	0.0%



問 18. 【情報力】 我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	4	14.8%
2：あてはまる	8	29.6%
3：どちらでもない	9	33.3%
4：ややあてはまらない	5	18.5%
5：あてはまらない	1	3.7%



問 19. 実社会での経験を重ねた今、社会人として必要だ と思うもの、短大時代に  
身につけておけば良かったこと、在学生に身につけて欲しいこと等について、ご意見を自由にご記入ください。

- ・ 基本的なマナー
- ・ 文章力
- ・ 報連相の大切さ
- ・ 栄養士として必要最低限の知識や技術は身につけておいて絶対損は無いと思います。また、手があいたら何をすべきかすぐに確認したり、常に考えて自分に出来ることを探せるように学生時代の調理実習などを通して学ぶべきだと思います。
- ・ 介護の基礎
- ・ コミュニケーション能力、報連相
- ・ 調理技術
- ・ 目上の人とのコミュニケーション能力
- ・ もっと基礎的な栄養や衛生管理の知識をつけておけばよかったと思った。
- ・ 礼儀、態度、学生と社会人のギャップを前持って知ること

- ・社会人として必要だと思うものは学ぼうとする意欲
- ・なかなか目の前にあることをするだけで終わってしまうから、短大時代に身につけておけばよかったことは学力。  
もう少し勉強しておけばよかった
- ・在学生に身につけて欲しいことは常識！！これだけ  
あとは何があっても逃げない心！我慢も必要！”
- ・“食材の旬や効果などの基礎的な知識
- ・人前で発表することに慣れておく”
- ・前もって社会人と学生のギャップがあることを知る

問 20. その他、ご意見ご要望などございましたらご記入下さい。

特になし

(2)初等教育科【送付:404人、回収:68人、回収率16.8%】

調査対象 2016年度卒業生及び2018年度卒業生

発送日 令和3年8月2日(月)

回答期限 令和3年8月17日(火)

【I.はじめに基本事項についてお答えください。】

問1. あなたの卒業年月をお答えください。

卒業年月	回答数	割合
2015年9月	0	0.0%
2016年3月	2	2.9%
2017年9月	32	47.1%
2018年3月	1	1.5%
2019年3月	33	48.5%
合計	68	100.0%

問2. 現在の職業(職種)をお答えください。

職業(業種)	回答数	割合
保育士	30	44.1%
保育教諭	17	25.0%
小学校教諭	7	10.3%
幼稚園教諭	6	8.8%
施設職員	2	2.9%
小学校講師	1	1.5%
製造業	1	1.5%
接客業	1	1.5%
専業主婦	1	1.5%
特別支援学校	1	1.5%
国家公務員	1	1.5%
総計	68	100.0%

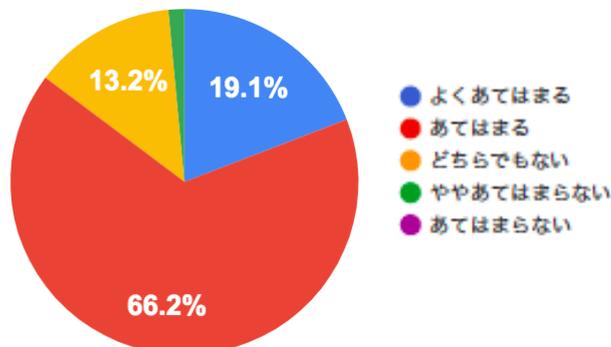
【Ⅱ. 別府大学短期大学部初等教育科で受けた教育について、次の事項に5段階評価でお答えください。また、各事項に対して特記事項があれば、自由記述欄にご記入ください。】

[1:よくあてはまる 2:あてはまる 3:どちらでもない 4:ややあてはまらない 5:あてはまらない]

〈教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）について〉

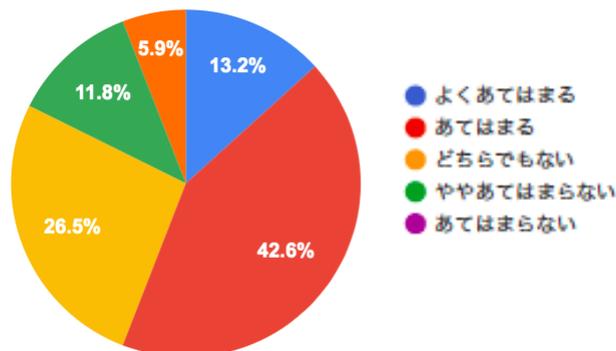
問3. 短期大学卒業に必要な知識・技能と幅広い思考力・判断力・表現力などの基礎的な教養は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1:よくあてはまる	13	19.1%
2:あてはまる	45	66.2%
3:どちらでもない	9	13.2%
4:ややあてはまらない	1	1.5%
5:あてはまらない	0	0.0%



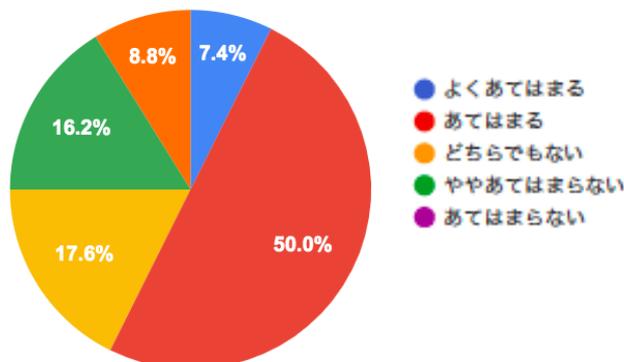
問4. 人間の探求や自然の摂理（心理学、生物学、化学）、社会の文化（法学、地域社会論）などの基礎的教養は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1:よくあてはまる	9	13.2%
2:あてはまる	29	42.6%
3:どちらでもない	18	26.5%
4:ややあてはまらない	8	11.8%
5:あてはまらない	4	5.9%



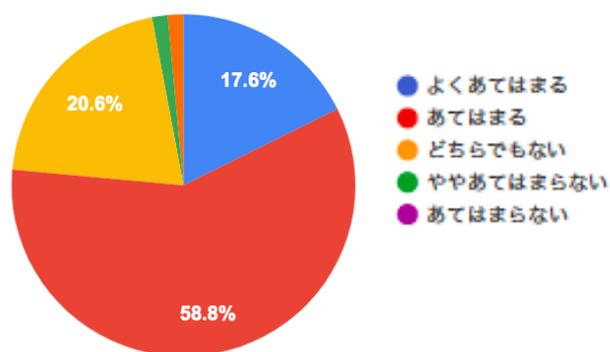
問5. 情報処理や外国語（情報機器論、英語）などの基本的なリテラシーは役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1:よくあてはまる	5	7.4%
2:あてはまる	34	50.0%
3:どちらでもない	12	17.6%
4:ややあてはまらない	11	16.2%
5:あてはまらない	6	8.8%



問 6. 運動と健康維持・増進などの活動を実践する基本的な技能（保健体育）は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	12	17.6%
2：あてはまる	40	58.8%
3：どちらでもない	14	20.6%
4：ややあてはまらない	1	1.5%
5：あてはまらない	1	1.5%



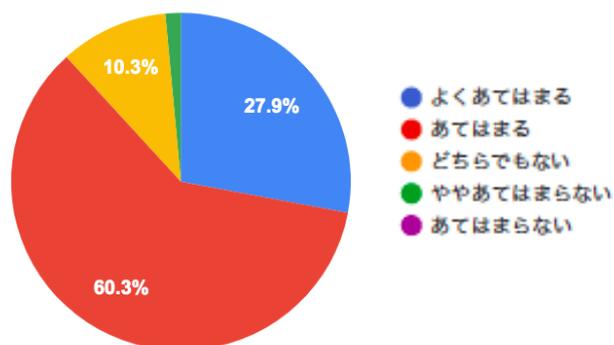
問 7. どのような教養教育が社会に出た後に役立つと思いますか。ご意見を自由にご記入ください。

- ・手遊び、具体的な子どもたちとのあそび
- ・実習
- ・積極性、コミュニケーション能力
- ・社会性のマナー
- ・社会人としてのマナー
- ・相手の立場に立って考えられるような教育
- ・柔軟な思考力 考える力
- ・社会人としての礼儀
- ・教科別の指導法

〈専門力（専門に関する基本的な知識、技能）について〉

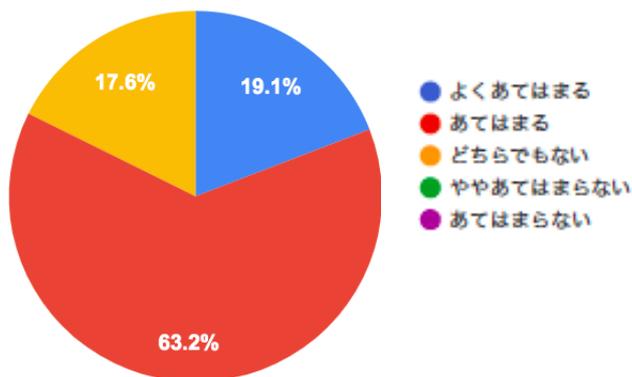
問 8. 教育・保育に必要な教科・保育内容に関する知識・技能は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	19	27.9%
2：あてはまる	41	60.3%
3：どちらでもない	7	10.3%
4：ややあてはまらない	1	1.5%
5：あてはまらない	0	0.0%



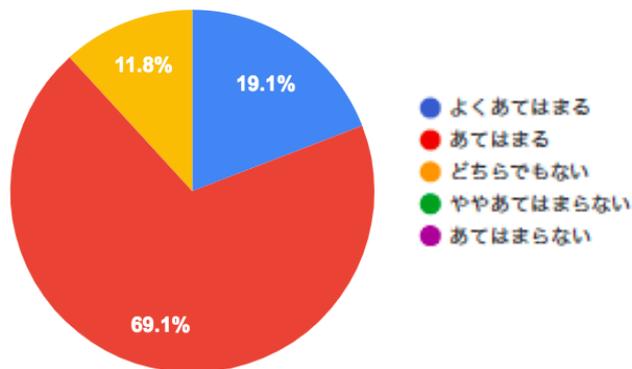
問 9. 教育・保育の本質や目的、基礎理論や教職の意義は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	13	19.1%
2：あてはまる	43	63.2%
3：どちらでもない	12	17.6%
4：ややあてはまらない	0	0.0%
5：あてはまらない	0	0.0%



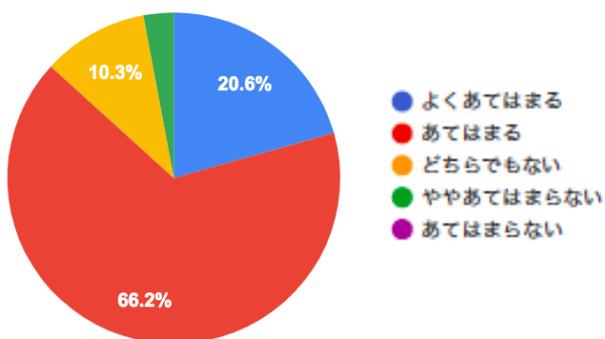
問 10. 教育・保育の対象である子どもの成長・発達、保健、栄養、そして家庭での生活などの知識・技能は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	13	19.1%
2：あてはまる	47	69.1%
3：どちらでもない	8	11.8%
4：ややあてはまらない	0	0.0%
5：あてはまらない	0	0.0%



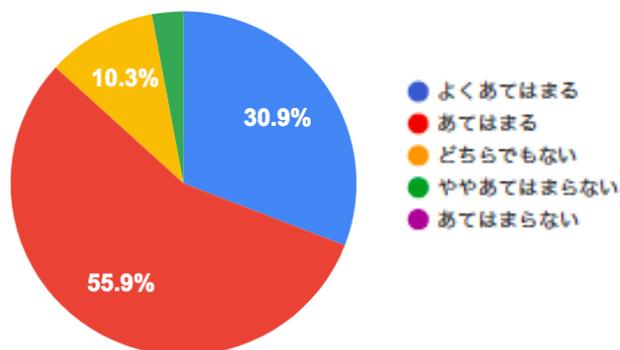
問 11. 教育・保育の指導内容や指導方法に関する知識・技能と思考力・判断力・表現力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	14	20.6%
2：あてはまる	45	66.2%
3：どちらでもない	7	10.3%
4：ややあてはまらない	2	2.9%
5：あてはまらない	0	0.0%



問 12. 教育・保育の実際のある場である園・学校及び施設での実習により、総合的に修得した知識・技能と思考力・判断力・表現力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1:よくあてはまる	21	30.9%
2:あてはまる	38	55.9%
3:どちらでもない	7	10.3%
4:ややあてはまらない	2	2.9%
5:あてはまらない	0	0.0%



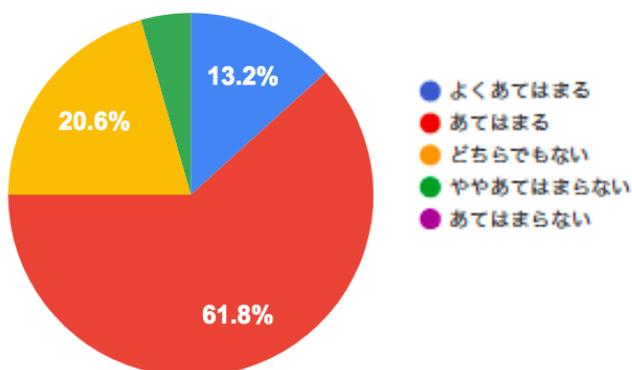
問 13. 実社会での経験を踏まえて学生時代を振り返ったときに、有意義だったと思う専門科目の授業がありましたらご記入ください。またその理由をご記入ください。

- ・障害児保育
- ・音楽
- ・保育内容について、様々な分野の基礎を学ぶことができた。
- ・音楽表現、ピアノ、心理学、保健
- ・毎日の保育で弾くため 簡単にした楽譜を今でも参考にしている
- ・障がいのある子どもやグレーゾーンの子どもの多い時代だが、学ぶ前までは知らないことも多かった。障害の種類、特徴など勉強できていてよかった
- ・教育実習はとても有意義だった。希望する職種の雰囲気を身をもって感じる事ができたから。実習を通してその仕事の魅力的な面とそうでない面を知ることができた。また、今勤務している職場と教育実習でお世話になった職場を比較することで、今の職場の良い点や悪い点が見えてくるというメリットもある

〈汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）について〉

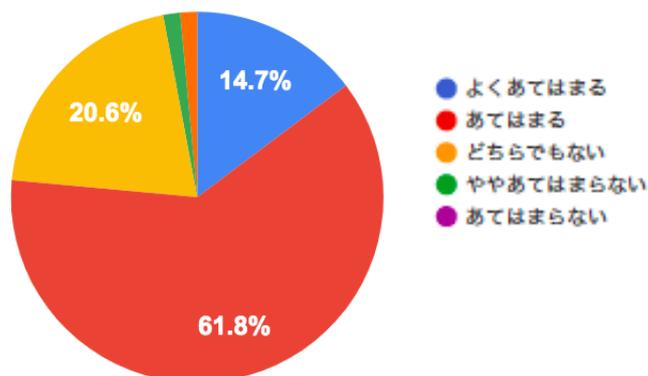
問 14. 【思考力】論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1:よくあてはまる	9	13.2%
2:あてはまる	42	61.8%
3:どちらでもない	14	20.6%
4:ややあてはまらない	3	4.4%
5:あてはまらない	0	0.0%



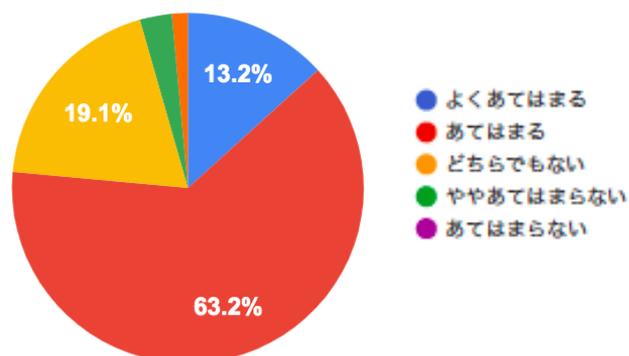
問 15. 【実行力】 組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	10	14.7%
2：あてはまる	42	61.8%
3：どちらでもない	14	20.6%
4：ややあてはまらない	1	1.5%
5：あてはまらない	1	1.5%



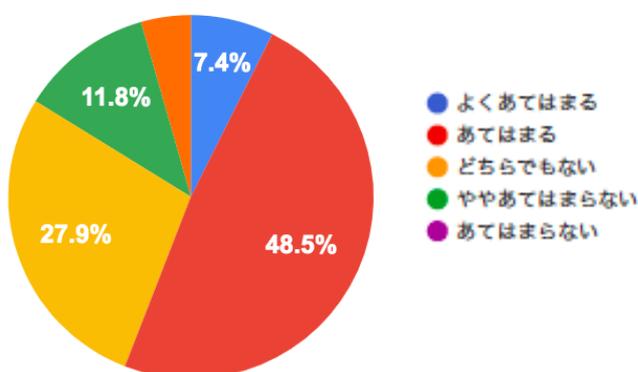
問 16. 【表現力】 自分の考えを的確に文章或いは口頭で表現する力、場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、コミュニケーション力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	9	13.2%
2：あてはまる	43	63.2%
3：どちらでもない	13	19.1%
4：ややあてはまらない	2	2.9%
5：あてはまらない	1	1.5%



問 17. 【情報力】 我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心をもち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	5	7.4%
2：あてはまる	33	48.5%
3：どちらでもない	19	27.9%
4：ややあてはまらない	8	11.8%
5：あてはまらない	3	4.4%



問 18. 実社会での経験を重ねた今、社会人として必要だと思うもの、短大時代に身につけておけば良かったこと、在学生に身につけて欲しいこと等について、ご意見を自由にご記入ください。

- ・手遊び、ペープサート、壁面
- ・一般常識、マナー等
- ・コミュニケーション能力、積極性
- ・言葉遣い
- ・社会人として、色んなことを乗り越えられる考え方やメンタルとマナー、礼儀が必要
- ・子どもの発達や感染症について積極的に学んでおけばよかった
- ・ソーシャルスキルの重要性を感じる
- ・コピー機の使い方、電話のかけ方や受け方など社会人として必要なスキル
- ・嘔吐物、排泄物の処理の仕方の実践
- ・教科書では学べないことを実習でもっと学ぶべきだった

問 19. その他、ご意見ご要望などございましたらご記入下さい。

- ・昔と今の保育は大きく変わってきているので、今の保育に大事なことを学生たちに伝えていく必要がある
- ・実習生の電話対応、実習態度、実習日誌の指導を充実させてほしい。
- ・意欲的に行動できる人を求めています。
- ・基本的な事をしっかり教えて実習へ送り出してほしい。
- ・学生時代に、エプロンシアターやスケッチブックシアター等の保育に関する技術を沢山経験し習得することで、現場に出た時に役立つことを改めて感じた
- ・2年間という短い期間だったが、とても充実した短大生活を送ることができた
- ・短大で学んだことが、今の仕事にとっても役にたっている
- ・短大で苦労もあったが、最後まで頑張ってよかった

# 別府大学短期大学部「アセスメント・ポリシー」に基づく卒業生・雇用主アンケートの結果による DP 達成度評価

## 「卒業生・雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価実施要領

令和元年 6 月 12 日  
短大企画運営会議

### 目的

別府大学短期大学部「アセスメント・ポリシー」では学修到達状況の評価指標の一つに「卒業生調査による「卒後評価」」が定められている。このアセスメント・ポリシーに基づき、「平成 30 年度卒業生・雇用主アンケート」の結果から DP 達成度を評価し、現在の教育・研究内容の課題を明らかにすることを目的とする。

### 実施方法

(1) 「平成 30 年度卒業生・就職先アンケート」の結果を踏まえ、各学科の DP 3 領域 15 項目（教養 5 項目、専門 6 項目、汎用 4 項目）について、それぞれ 4 段階で到達度を評価し、その判断理由を 200 字程度で記入する。

(2) 4 段階の評価基準は次の通りとする。

評価	評価の基準
4	DP の達成度が 80%～100%
3	DP の達成度が 60%～80%
2	DP の達成度が 40%～60%
1	DP の達成度が 40%以下

(3) DP 到達度の評価は、1 項目を 2 名以上の教員で評価することとし、また、出来るだけ多くの教員で分担して実施する。

(4) 3 領域（教養，専門，汎用）毎に達成度及び前回評価結果からの改善についての総評を 200 字程度で記入する。

(5) DP 到達度評価は評価用紙に記入する。各学科で評価結果をとりまとめて学科長が学長補佐（教務担当）に提出する（7 月 26 日（金）を〆切とする）。

### 評価結果の集約

各学科の DP 到達度評価結果は学長補佐（教務担当）が集約する。

### 評価結果の報告

全体の評価結果は学長に報告した後に短大企画運営会議で報告する。

平成 30 年 9 月 12 日  
別府大学短期大学部学長裁定

### 1. 目的

別府大学短期大学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、厳格で客観的・公正な成績評価を行ない、かつ、成績評価を含めた複数の方法で学生の学修到達状況を多角的・総合的に評価することによって、教育の質の向上及び教育の質の保証を行う。

### 2. 成績評価

別府大学短期大学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、シラバスに明示した授業の到達目標及び評価方法並びに学科履修規程に明記された成績評価の区分によって、厳格で客観的・公正な成績評価を行う。

### 3. 成績評価を含めた多角的な学修到達状況の評価

別府大学短期大学部は、2. の成績評価に加え、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、各学科・課程等（学位又は教育プログラム策定単位）を基本に、その学修内容等に応じ、下記から選択した複数の方法で学生の学修到達状況や達成すべき質的水準を多角的・総合的・客観的に検証（測定）・評価する。このことによって、ディプロマ・ポリシーを起点としたPDCAサイクルを回し、授業内容、授業方法、評価基準、カリキュラム、入学者選抜などについて改善を図るとともに、ディプロマ・カリキュラム・アドミッションの各ポリシーについて必要な見直しを行う。さらに、学修成果(到達目標)の達成度評価を集約し、別府大学短期大学部全体の学修成果の達成状況を評価する。

#### ① ポートフォリオ学修支援システムでの「学生による評価」

学生自身が、ポートフォリオ学修支援システムを利用して、学修成果(到達目標)の達成度を自己評価する。

#### ② 口頭試問での「教員による評価」

卒業時に修得することが期待される学修成果(到達目標)を、発表または口頭試問によって評価する。

#### ③ まとめ試験による「客観評価Ⅰ」

科目区分毎に「まとめ試験」による内部アセスメントテストを行い、修得することが期待される学修成果(到達目標)について達成度を確認する。

#### ④ 外部テスト等による「客観評価Ⅱ」

客観的な評価を行うために、外部テストなどを利用した学修成果(到達目標)の達成状況を評価する。

#### ⑤ 卒業生調査による「卒後評価」

別府大学短期大学部での教育への評価、職業生活や社会生活での必要な知識と能力、別府大学短期大学部への希望などについて、卒業生への調査を行うことで、学修成果（到達目標）の達成状況を評価する。

#### ⑥ 地元社会・産業界からの「外部評価」

在学生においては、実習先訪問や実習連絡会議等を通して、学外実習先の企業や施設などでの学に対する評価を把握し、到達目標の達成度を評価する。卒業生においては、就職先の企業等での卒業生に対する評価を把握し、到達目標の達成度を評価する。

## 食物栄養科「卒業生アンケート」によるDP達成度評価

食物栄養科は、本学の定める課程を修了し、「教養」、「専門力」、「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に短期大学士（栄養学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

本年度の調査は、2016年度と2018年度の卒業生を対象として実施し、昨年度よりも回答数のUPを図った。送付数98人のうち回答人数27人、回収率は27.8%であった。回答人数、回収率ともに前回調査より多くはなかったが、今後、調査数そのものを多くするような検討が必要である。

### 1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）カッコ内の数字は昨年度の評点

- (1) 短期大学の教育に必要な知識・技能と思考力・判断力・表現力などの基礎的な教養を身につけ、建学の精神及び教育目的・教育目標等を理解している。

評価（1～4）	理由
4 (4)	卒業生アンケートにおいて、「よくあてはまる」「あてはまる」の回答が81.5%となり評価を4とした。この結果から、基礎的な教養を身につけることや、建学の精神及び教育目的・教育目標等の理解については、多くの卒業生が肯定的にとらえており、この項目の目的は達成できていると考えられた。

- (2) 人間の探究や自然の摂理、社会の文化などの基礎的教養を身につけている。

評価（1～4）	理由
2 (3)	卒業生アンケートにおいて、「よくあてはまる」18.5%、「あてはまる」33.5%で評価の合計は51.8%であったことから評価は2とした。昨年度の「よくあてはまる」「あてはまる」の割合が72.8%であり、達成状況が低下した。「どちらでもない」との回答が44%を占めたことから、基礎的教養が専門性の中に活かされることや社会生活を送る上での教養となる必要性を認識することを含めて各科目の授業の中で学修していく必要がある。

- (3) 情報処理や外国語などの基本的なリテラシーを身につけている。

評価（1～4）	理由
2 (3)	卒業生アンケートにおいて、「よくあてはまる」「あてはまる」の割合が55.5%であり評価は2とした。昨年度の「よくあてはまる」「あてはまる」の割合は68.2%で達成状況は低下した。「どちらでもない」という回答が33%を占めた。情報処理に関しては後述のアンケート項目である情報力も評価が低い。現在、情報力に関する授業の再編がなされていることや外国語の習熟度別クラス編成などが始まっており、今後これらの改善が評価向上に寄与することが期待される。

(4) 運動と健康維持・増進などの活動を実践する基本的な技能を身につけている。

評価 (1～4)	理由
3 (3)	「よくあてはまる」「あてはまる」の合計の評価は70.4%で評価を3とした。昨年度は「よくあてはまる」「あてはまる」が63.7%だったので評価の数値としてはやや向上した。教養科目「スポーツと健康」や「体育実技」は履修者が少ないものの、専門科目における栄養学的観点から栄養学とともに健康維持・増進に関する基本的知識と技能を身につけていると推察される。栄養士として重要な知識・技能であるため、さらに学修効果を高めていくことが必要である。

教養 (人間性の形成に資する幅広い知識、技能) DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評
<p>回答数が少なく、十分な評価・考察はできないが、評価点は2～4が得られた。教養力の調査項目に応じて卒業生の評価に差が生じたことが今回の特徴となった。</p> <p>(1)については学生評価が高く、基礎的な教養が役立っているとの評価であったが、(2)人間の探求他、(3)情報処理他を対象とするような具体的な質問内容では「どちらでもない」との回答が多くを占めた。「どちらでもない」の回答は解釈を困難にしているが、今後これらの回答が「あてはまる」方向へ向上していくような教養教育における学修の内容を検討する必要がある。</p> <p>(4)は栄養士という資格を持つ卒業生も多いことで、栄養面のみならず健康維持から運動を重要としていることがわかった。</p> <p>自由記述においては、マナーを求める意見が多く、挨拶など常識を求める意見も目立っている。社会的な常識の獲得に向けたための大学側の検討が必要かもしれない。</p>

## 2. 専門力 (専門に関する基本的な知識、技能) カッコ内の数字は昨年度の評点

<社会的意義>食物と栄養・健康に関する知識や技術の社会的な意義や、食物と栄養・健康に関する知識や技術を学ぶことによって社会でどのような役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

<職業生活で評価される能力>食物と栄養・健康に関する専門教育を通して、職業生活等で評価される能力として、特に栄養管理や給食管理、調理の能力を修得している。

(1) 社会生活と健康について基礎的な知識を修得している。

評価 (1～4)	理由 (
3 (4)	卒業生アンケートにおいて、「よくあてはまる」「あてはまる」が70.4%と回答し、評価は3とした。昨年度は「よくあてはまる」「あてはまる」の評価は86.3%で評価が低下した。「どちらでもない」という評価が3割存在するが、卒業生は栄養に関する就職先ばかりではないので、このような回答は一定数出てしまうのかもしれない。少なくとも「あてはまらない」との回答は見られないので、卒業生が一定の社会福祉や健康管理に関する基礎的な知識および技術を概ね修得し、卒業後も役立っていると考えられる。

(2) 人体の構造と機能についての基礎的な知識とそれに関する実験の技能を修得している。

評価（1～4）	理由
3 (3)	「よくあてはまる」「あてはまる」は、62.9%であったのに対し、「どちらでもない」が3割を超え、「ややあてはまらない」の回答も1件あった。この分野は先の（1）社会生活と健康の問い以上に専門性が高く、栄養士職以外の一般職の回答も含まれることが結果に影響していると思われる。

（3）食品と衛生についての基礎的な知識とそれに関する実験の技能や調理技術を修得している。

評価（1～4）	理由
4 (4)	卒業生アンケートにおいて、「よくあてはまる」44.4%、「あてはまる」40.7%と回答し、評価は4とした。合計した評価は85.1%あり、多くの卒業生が食品と衛生に関する基礎的な知識および技術を概ね修得しており、卒業後も役立っていると考えられる。食品と衛生に関する基礎的な知識は栄養士としてはもとより、一般の社会生活においても重要なことであり、継続して学修を充実させていく必要がある。

（4）栄養と健康についての基礎的な知識とそれに関する実験の技能や調理技術を修得している。

評価（1～4）	理由
4 (4)	卒業生アンケートにおいて、「よくあてはまる」44.4%、「あてはまる」40.7%と回答し、合計85.1%で評価は4とした。卒業生は栄養と健康に関する基礎的な知識および技術を概ね修得しており、卒業後も役立っていると考えられる。栄養と健康に関する基礎的な知識は、一般の社会生活においても重要で、今後も継続して学修を充実させていく必要がある。

（5）栄養の指導についての基礎的な知識とそれに関する実践的な技術を修得している。

評価（1～4）	理由
4 (3)	卒業生アンケートにおいて、「よくあてはまる」29.6%、「あてはまる」51.9%と回答、合計81.5%で評価は4とした。多くの卒業生が栄養の指導に関する知識や技術が役立っていることがわかった。昨年は「よくあてはまる」「あてはまる」の合計評価は72.7%だったので評価は向上した。栄養の指導についての学習内容は、概ね知識および技術が修得でき、指導という観点から一般職においても役立っていると考えられる。

（6）給食の運営についての基礎的な知識とそれに関する実践的な技術を修得している。

評価（1～4）	理由
3 (4)	卒業生アンケートで「よくあてはまる」「あてはまる」の回答は合計74%で評価は3とした。回答者は、直接給食業務に関わらない一般職も多いこともあるが、給食の運営に関する基礎的な知識および実践的な技術は概ね役立っていると思われる。

専門力（専門に関する基本的な知識、技能） DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評	
<p>専門性に関する知識、技能は卒業後に栄養士業務に携わるかどうかで、いかされ方が変わってくることを考えられる。</p> <p>しかし、今回、専門力の評価は、すべての質問項目で3～4であったので、卒業生の大半が専門に関する知識・技能は概ね修得できていると考えられる</p> <p>自由記述に関して、栄養に関する知識、調理、病院実習が有意義であったという意見がほとんどであり、これらの授業、実習がきわめて有効であったことがわかったので、今後とも継続してよい講義、実習となるよう努力したい。</p>	

### 3. 汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）カッコ内の数字は昨年度の評点

#### (1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

評価（1～4）	理由
3 (3)	<p>「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合が卒業生は70.3%であった。評価は3とした。大学で身につけた「思考力」が社会でほぼ役立っていると考えられる。</p> <p>一方、卒業生の29.6%が「どちらでもない」と回答した。自由記述ではマナー、コミュニケーションの能力を問う意見も多く、今後、社会生活に対応できるような、自ら考える思考力、実践力を学生時代に養うことが必要と考える。</p>

#### (2) 実行力

組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働力、傾聴力などを含む。

評価（1～4）	理由
4 (3)	<p>「よくあてはまる」33.3%、「あてはまる」48.1%で合計81.4%となったことから評価を4とした。昨年の評価が3だったので向上がみられた。今回、回答した卒業生は、大学で身につけた「実行力」が社会である程度役立っていると考えられる。今後も実習、研究会などを通して目標を達成するための実行力を身につけていく必要がある。</p>

#### (3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

評価（1～4）	理由
4 (3)	<p>「よくあてはまる」25.9%、「あてはまる」55.6%で、評価の合計が81.5%となったので評価を4とした。昨年度の評価よりも向上した。今回、回答した卒業生は、大学で身につけた「表現力」が社会である程度役立っていると考えられる。目標を達成するため、今後も授業や研究会活動などを通じて学生の表現力のさらなる向上を促していく必要がある実行力を身につけていく必要がある。</p>

#### (4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、PCスキルなどを含む。

評価 (1～4)	理由
2 (2)	「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合は44.4%でDP達成度は2とした。この評価は昨年と同様であった。また「ややあてはまらない」「あてはまらない」との回答もあり、図書、ICT機器を用いて情報を収集する力を身に付けさせることが難しいことが分かる。今後は教養科目を中心とした情報関連科目の改編等がなされており、情報力が向上するよう期待されている。

汎用力 (社会で活躍できる汎用性のある能力) DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評
<p>実行力、表現力については評価が4、思考力については評価が3となり、この3項目については社会で活躍できる概ね修得できていると思われる。</p> <p>しかし、情報力については、今回もこれまでの調査同様評価が低かった。現在、情報関連に関する授業科目の改編、また、遠隔授業の拡大によるPCを活用した情報系の授業も増えていることから、正しく情報を収集する技術を習得し、栄養士としての情報収集分析力の向上が期待される。加えて、情報収集力の向上のための図書や文献の検索方法、活用方法を指導していくことが強く求められる。</p>

## 初等教育科「卒業生アンケート」による DP 達成度評価

初等教育科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に、短期大学士（教育学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

本年度の調査は、2016年度～2019年度の卒業生を対象として回答数のUPを図ったが、送付数404人のうち回答人数は16.8%の68人であった。昨年度調査の回答人数31人、回収率9%より多くはなったが、依然回収率は低く、調査の信頼性に課題が残る。お盆前に自宅に届くように送付する等の検討が必要である。

### 1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識・技能）

カッコ内の数字は昨年度の評点

- (1) 短期大学の教育に必要な知識・技能と思考力・判断力・表現力などの基礎的な教養を身につけ、建学の精神及び教育目的・教育目標等を理解している。

評価（1～4）	理由
4 (3)	「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合の合計は85.3%であった。8割を超える卒業生が理解していることを示しており、基礎的な教養を身につけ建学の精神及び教育目的・教育目標をほぼ達成できていると考える。

- (2) 人間の探究や自然の摂理、社会の文化などの基礎的教養を身につけている。

評価（1～4）	理由
2 (2)	「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合の合計は約5割強であり教養教育にかかわる質問の中では相対的に満足度は低い。この分野は普段の保育・教育の理論的土台をなすものであり、保育・教育の質向上を目指すために、教育の充実を図る必要がある。

- (3) 情報処理や外国語などの基本的なリテラシーを身につけている。

評価（1～4）	理由
2 (2)	「よくあてはまる」「あてはまる」回答した割合の合計は6割弱であった。情報処理等の能力は職場での必要性も高まっていると思われるため、さらなる充実した指導が必要である。

- (4) 運動と健康維持・増進などの活動を実践する基本的な技能を身につけている。

評価（1～4）	理由
3 (2)	運動と健康維持・増進活動の実践技能については、「よくあてはまる・あてはまる」の回答が76.4%と昨年度よりもかなり高かった。また、「ややあてはまらない」「あてはまらない」という回答はほとんどなく、学んだことを実践で十分に活かしているようである。

**教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評**

今回のアンケートでも回答数が十分ではないため個人差が見られる。全体としては昨年度に比べ調査結果が良くなっている傾向にあるが、まだ十分とは言えないため、「人間の探究や自然の摂理、社会の文化などの基礎的教養」「情報処理や外国語などの基本的なリテラシー」の指導内容や方法については積極的に見直し・改善する必要がある。

**2. 専門力（専門に関する基本的な知識・技能及び態度）**

## &lt;社会的意義&gt;

教育学のもつ社会的な意義や、教育学を学ぶことによって現代社会の中でどのような役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

## &lt;職業生活で評価される能力&gt;

教育学の専門教育を通して、職業生活で評価される能力として、特に教育・保育に対する強い情熱、確かな指導力と総合的な人間力を身につけている。

(1) 教育・保育に必要な教科・保育内容に関する知識・技能を修得している。

カッコ内の数字は昨年度の評点

評価（1～4）	理由
4 (3)	卒業生アンケートにおいては 88.1%が「よくあてはまる・あてはまる」と回答しており、満足度はかなり高いと言える。保育に必要な情報や知識技能は概ね修得できていると言える。

(2) 教育・保育の本質や目的、基礎理論や教職の意義を修得している。

評価（1～4）	理由
4 (3)	卒業生アンケートでは、82.3%が「よくあてはまる」「あてはまる」と回答しており、満足度は高いと言える。昨年度よりも満足度は高まっており、改善が見られた。

(3) 教育・保育の対象である子どもの成長・発達、保健、栄養、そして家庭での生活などの知識・技能を修得している。

評価（1～4）	理由
4 (3)	子どもの成長・発達、保健、栄養、生活の知識や技能について 88.2%の卒業生が「よくあてはまる・あてはまる」としており、昨年度よりもかなり向上している。概ね知識技術の修得ができていると判断できる。

(4) 教育・保育の指導内容や指導方法に関する知識・技能と思考力・判断力・表現力を修得している。

評価 (1～4)	理由
4 (3)	「よくあてはまる」「あてはまる」と修得しているとの評価が 86.8%であり、昨年度調査より高い評価である。自由記述では、有意義だった授業に「ピアノ」「障がい児保育」「保育内容」等いくつかの意見もあり、修得に関して満足度は高い。

(5) 教育・保育の実際のある場である園・学校及び施設での実習により、知識・技能と思考力・判断力・表現力の総合的に修得している。

評価 (1～4)	理由
4 (4)	卒業生では、よくあてはまる・あてはまるが 86.8%であり、学生の満足度は高い。「教育実習」で、充実した学びがあったとの意見も見られた。引き続きさらなる実習指導の充実を図っていきたい。

**専門力 (専門に関する基本的な知識、技能) DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評**

専門力に関する取り組みについて、すべての項目で 4 の評価であった。卒業生の回答は非常に良好で、専門力の修得に関して満足度が高い。引き続き、本学の専門力の修得については、能動的に学ぶことができるような授業を行う学習方法等を取り入れるなど、主体性を重んじた体験的・実践的な方法を取り入れた授業展開が必要と思われる。

**3. 汎用力 (社会で活用できる汎用性のある能力)**

(1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

カッコ内の数字は昨年度の評点

評価 (1～4)	理由
3 (2)	「よくあてはまる」「あてはまる」が 75%であり、昨年度調査の 48%から大きく向上している。社会に出てからは自ら学ぼうとしたり、自分で課題を見つけ改善したりしようとする思考力を身につけた人材が求められているため、引き続き改善の取り組みを続けていく必要がある。

(2) 実行力

組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働力、傾聴力などを含む。

評価 (1～4)	理由
3 (2)	「よくあてはまる」「あてはまる」が 76.5%であり、昨年度調査の 52%から大きく向上している。働く上で、主体性や他者との協調力が必要であり、教育・保育者としては子どもたちや保護者などの声に耳を傾ける傾聴力が重要である。向上しているので今後も今の教育的取り組みを継続していくことが重要である。

(3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

評価（1～4）	理由
3 (2)	「よくあてはまる」「あてはまる」が76.4%であり、昨年度調査の58%から大きく向上している。一般の職業においてでももちろんであるが、特に多くの卒業生がついている教育や保育、介護関係の仕事は、コミュニケーションをとることが重要になる職業に就いている。引き続き表現力や豊かなコミュニケーション力を身につけてられるような取り組みを改善しながら続けていく必要がある。

#### (4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、PCスキルなどを含む。

評価（1～4）	理由
2 (2)	「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した者の割合の合計は、55.9%であり、昨年度調査の36%から大きく向上しているが、十分に高いとは言えない。汎用力においてもっとも低い実態である。国際的な動向に関心を持つ必要性がないと考えていることが理由の一つと考えられる。在学中よりすべてのことが自分の将来や子どもたちの未来につながっていくという意識をもたせ、幅広い視点から興味関心を持ち、自ら情報収集し、関連づけられる態度や情報収集のスキルの向上について授業で強化していく必要がある。

汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評
<p>汎用力の多くが評価3であり、昨年度調査結果と比べると実態の数値としては向上しているものの、まだ十分に高い値であるとは言えない。特に情報力においては他の調査項目の結果も鑑みて、改善に努める必要がある。</p> <p>学生に我が国や国際社会の現在の動向や問題について自分のことや子どもたちに関わることでありと関心や問題意識をもたせるように意識した授業を行う。</p> <p>問題意識をもたせることで、学修の目的意識が高まり、図書やICT機器を用いて情報を収集したり、相手にわかりやすく表現して伝えたりしようとする気持ちを高めることができる。それにとともに、その取り組み過程で情報収集力やPCスキルも向上する。</p>